KENWOOD

AM／FM ステレオチューナー

KT-1100D

取扱説明書

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド
KENWOOD CORPORATION

© PRINTED IN JAPAN B50-6371-00 (J)(G)
89/12 11 10 9 8

お買い上げいただき，ありがとうございます。

ご使用に際し，本機の性能を十分に発揮させるため，本説明書を最後までお読みいただき，正しい使いかたにより末永くご愛用ください。

なお，本製品は厳重な品質管理のもとに生産されておりますが，万一運搬中の事故などに伴い破損等の不具合がありましたら，お早めに購入店，または最寄りのケンウッド各営業所，サービスセンターへお申しつけください。

アフターサービスについて

1. **保証書**—この商品の保証書は別途添付してあります。必ず所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保存してください。
2. **保証期間**—お買上げの日より**1年間**です。正常なご使用状態でこの期間内に万一故障を生じた場合には，保証書の記載内容によりお買上げの販売店またはケンウッドの営業所が**無料修理**いたします。
3. **保証期間経過後の修理**についてはお買上げの販売店またはケンウッドの営業所にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合にはお客様のご要望により**有料修理**いたします。
4. 本機の**補修用性能部品の最低保有期間**は製造打切り後**8年間**です。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。
5. なおアフターサービスについて，ご不明な点はお買上げの販売店またはケンウッドの営業所にご遠慮なくご相談ください。

※ ダンボール箱は，アフターサービスや引越しの際大切な機器を保護するために，是非保管しご利用ください。

付属品について

本機には，下記の部品が付属されていますのでご確認ください。

T型FMアンテナ……1本
両ピンコード……1本
75Ω/300Ωアンテナアダプター……1個
AMループアンテナ……1個

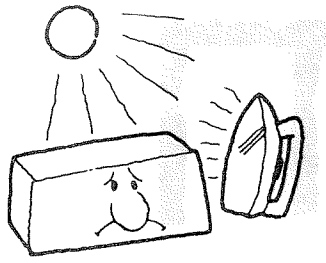
目　次

ご使用の前に……2
定　格……3
接続のしかた……4
外部アンテナについて……5
各部の名称と動作説明……6
操作のしかた……8
故障と思われる症状ですが……10

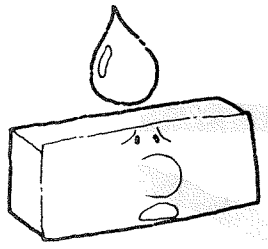
ご使用の前に

設置上のご注意

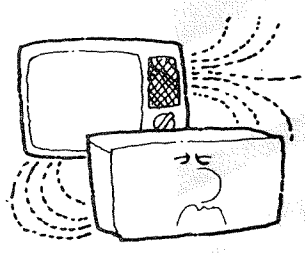
直射日光の当る所，暖房器具など発熱物の近くはさけてください。



花びん，化粧品など水の入ったものは，セットの上に置かないでください。また，湿気の多い所はさけてください。

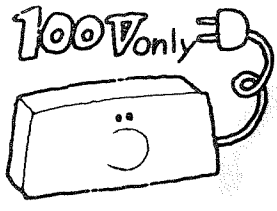


雑音をできるだけ少なくするために，テレビの近くや磁力を発生するものからは遠ざけてください。



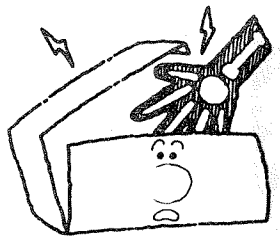
安全にお使いいただくために

本機は，交流100V専用です。クーラーなど三相200Vでは使えません。



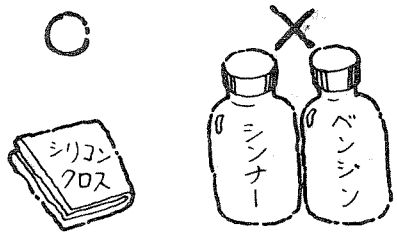
コンセントへ

ケースなどをはずし，内部にふれることはさけてください。内部に手を入れると感電，故障の原因となることがあります。


内部には手をふれない

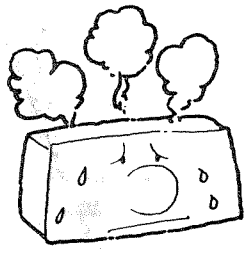
セットのお手入れ

前面パネル，ケースなどが汚れたときは，シリコンクロスかやわらかい布でからぶきします。シンナー，ベンジンなどの使用は変色の原因になることがあります。



異常にお気づきの際は

煙がでている，変な匂いがするなどのときは，電源スイッチをすばやくOFFにして電源コードを抜いてください。そのうえで速かに購入店または最寄りのケンウッドサービスセンター，営業所へご連絡ください。



ステレオ音のエチケット

良い音，楽しい音楽も，時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は，あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。

特に静かな夜間には，小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には，特に気を配りましょう。

窓を閉めたり，ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り，快い生活環境を守りましょう。

定　格

これらの定格およびデザインは，開発に伴い，予告なく変更になることがあります。

〔FMチューナー部〕

受信周波数範囲……76MHz～90MHz
アンテナインピーダンス……75 Ω不平衡
感度（IHF）75Ω……0.95 μV/10.8dBf（DISTANCE）
10 μV/31.2dBf（DIRECT）
SN比50dB感度　MONO……1.8 μV，16.2dBf（DISTANCE）
STEREO……24 μV，38.8dBf（DISTANCE）
高調波ひずみ率（100%変調）
MONO　100Hz……0.007%(WIDE)，0.05%(NARROW)
1kHz……0.005%(WIDE)，0.04%(NARROW)
50Hz～10kHz……0.01%(WIDE)，0.1%(NARROW)
STEREO　100Hz……0.01%(WIDE)，0.06%(NARROW)
1kHz……0.008%(WIDE)，0.05%(NARROW)
50Hz～10kHz……0.03%(WIDE)，0.3%(NARROW)
SN比（100%変調）　MONO……100dB（85dBf入力）
STEREO……92dB（85dBf入力）
キャプチャーレシオ……1.0dB(WIDE)，2.5dB(NARROW)
実効選択度（IHF：±400kHz）……70dB(WIDE)，100dB(NARROW)
ステレオセパレーション
1kHz……70dB(WIDE)，55dB(NARROW)
50Hz～10kHz……55dB(WIDE)，45dB(NARROW)
15kHz……45dB(WIDE)，40dB(NARROW)
周波数特性……20Hz～15kHz，±0.5dB
イメージ妨害比（84MHz）……90dB
IF妨害比（84MHz）……110dB
スプリアス妨害比（84MHz）……100dB
AM抑圧比……70dB
サブキャリア抑圧比……70dB
出力レベルおよび出力インピーダンス
FM 1kHz，100%変調　固定出力……0.6V，1.7kΩ

〔AMチューナー部〕

受信周波数範囲……531kHz～1602kHz
感度……10 μV；250 μV/m
SN比（30%変調，1mV入力）……55dB
高調波ひずみ率（1,000kHz）……0.3%（WIDE），0.6%（NARROW）
イメージ妨害比（1,000kHz）……40dB
IF妨害比（1,000kHz）……60dB
選択度（IHF）……30dB（WIDE），50dB（NARROW）
出力レベルおよびインピーダンス（400Hz，30%変調）……0.12V，1.7kΩ

〔電源部・その他〕

電源電圧・電源周波数……AC 100V，50/60Hz
定格消費電力（電気用品取締法に基づく表示）……18W
寸法……幅440×高さ88×奥行331（mm）
（突起部含む）
重量……正味4.6kg

メモリーバックアップ保証時間……7日（168時間）

接続のしかた

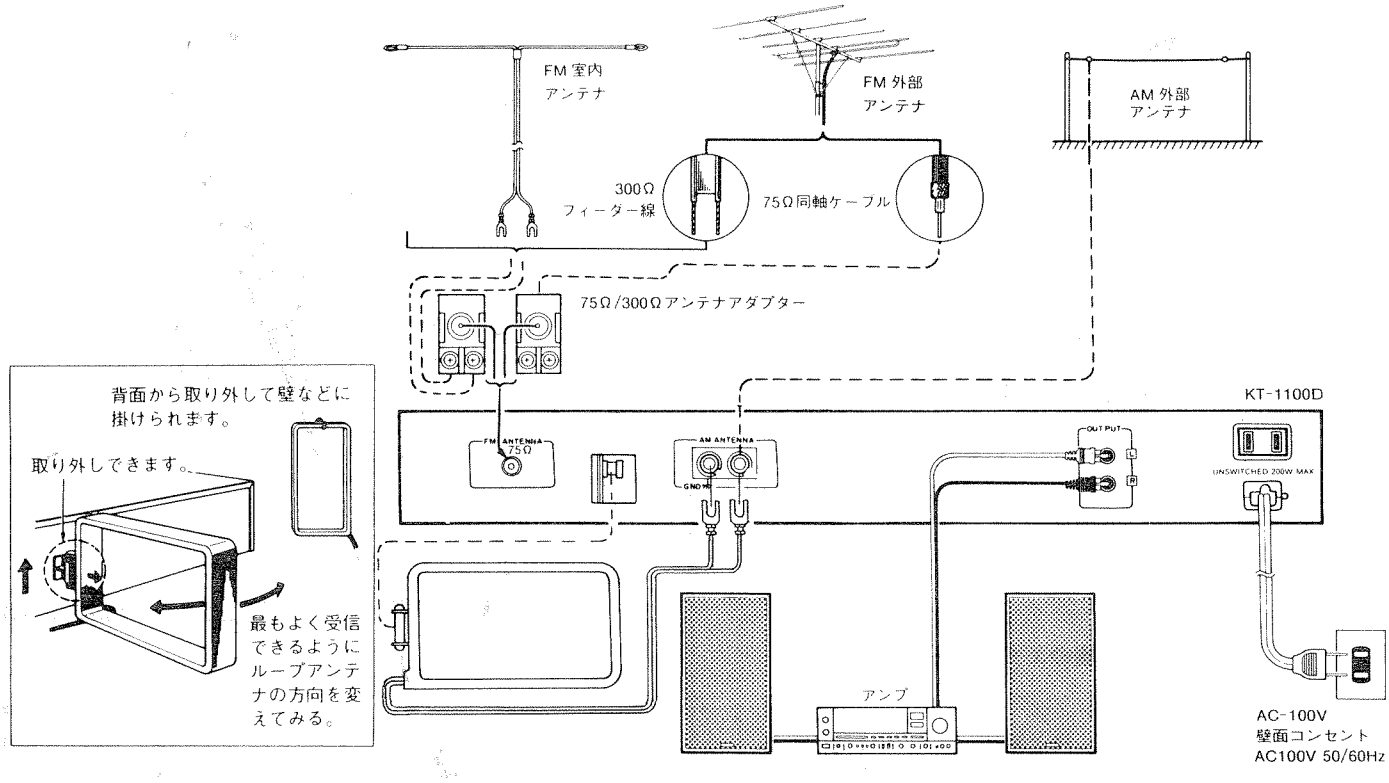
アンテナの接続

T型FMアンテナ： アンテナアダプターのネジターミナル部にT型アンテナのYラグ部を接続し，FMアンテナ(FM ANTENNA)端子にアダプターを差込みます。

T型アンテナはFM専用外部アンテナを設置するまでの間，一時的にご利用ください。

AMループアンテナ： ループアンテナのリード線のYラグ部をAMアンテナ(AM ANTENNA)端子に接続し，アンテナホルダーにループアンテナを押し込みます。また，ループアンテナをセット外に固定したいときは，ホルダーごとはずし(ホルダーを軽く上方向に押せば，はずれます)，シールをはがして，ホルダーを壁などに固定してください。さらにホルダー中央の穴を通して，木ネジなどで，固定することもできます。

ループアンテナのリード線が不足するときは，リード線を追加して受信状態のもっとも良い場所に設置してください。



アンプの接続

本機の出力(OUT PUT)端子とアンプの入力(TUNER)端子を，付属の両ピンコードで接続します。端子にはL(左)チャンネルとR(右)チャンネルがあります。必ず同じチャンネルにつないでください(上図参照)。

十分充電後は，電源スイッチOFFまたは，電源コードを抜いても7日以上数日間はメモリーバックアップをしています。

AC電源の極性について

本機のAC電源コードの片側には，白線マークが施されています。

AC電源コンセントへの差込みは，白線マーク側をコンセント差込み口の長い方に合わせるのが一般的ですが，接続される機器によっても，ACラインの状態によっても一様ではありませんので，比較試聴のうえ良い方をお選びください。

なお，従来通りに極性にとらわれず接続されても結構です。

1.本機に電源が通電するように，プログラムタイマーを操作します。
2.本機の電源を入れ受信状態にします。
3.プログラムスイッチをOFF状態にします(プログラムインジケーターが消灯していることを確認してください。)
4.最初に受信したい局がプリセットA側の場合，2番目に受信したい局をプリセットA側のCH-8にプリセットしてください。——Ⓐ
また，最初に受信したい局がプリセットB側の場合は，2番目に受信したい局をプリセットB側のCH-8にプリセットしてください。——Ⓑ
5.3番目に受信したい局をⒶの場合は，プリセットB側のCH-8にプリセットしてください。Ⓑの場合は，プリセットA側のCH-8にプリセットしてください。
6.最初に受信したい局を選局し，受信してください。このとき，プリセットA側;B側かに注意してください。
7.プログラムスイッチをON状態にしてください(プログラムインジケーターが点灯)。
8.本機へ3度通電するようにプログラムタイマーをセットしてください。
9.最初に本機へ通電されたときに，6で受信した局が受信されます。2度目に通電されたときは，4でプリセットされた局が，3度目には5でプリセットした局が受信されます。4度目以降は，CH-8のA側B側をくりかえし受信します。

ご注意：

プログラム受信の操作をしないときは，プログラムインジケーターが消灯していることを確認してください。プログラムインジケーターが点灯していますと，電源を入れるたびにA側、またはB側のCH-8に記憶されている局が受信されます。

レコーディングキャリブレートスイッチについて

FM放送を良質な音で録音するには，適切な録音レベルの設定が必要です。FM放送は，常に出力レベルが変動するため録音レベルの設定が困難です。本機では，レコーディングキャリブレートスイッチをONにしますと，約400Hzの信号(FM50%変調に相当するレベル)が連続的にOUTPUT端子に出てきます。この出力レベルで，テープデッキのVUメーターを−6dB，または50%に合わせておけば適正レベルの音量ができます。
また，録音テープは多少のオーバー入力は許容しますので，録音レベルを高めに設定したい場合は，プログラムソースで経験的に適正録音レベルを決定し，そのレベルをこの基準レベル信号を用いて確認しておきます。次回以降からの録音レベル設定に用いると便利です。
なお，モジュレーションインジケーターと併用するとさらに適正な録音レベルの設定ができます。

外部アンテナについて

FM 外部アンテナ

チューナーで一番大切なのは希望の電波を確実に十分キャッチすることです。そのためにはFM専用外部アンテナを必ずご使用ください。

電波が十分強くても，ビルの谷間や山に囲まれた地域では反射波で音が歪んだり，ステレオのセパレーションが悪くなります。このようなときはアンテナの指向性のするどい2素子位相差給電アンテナをご使用ください。

また，放送局から遠く電波が弱い地域では電界強度に応じて3素子，5素子，7素子のアンテナを選んでください。素子数が増せば利得が高くなり，指向性もするどくなります。

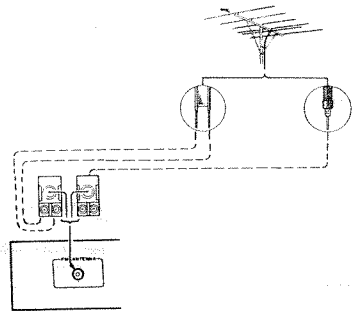


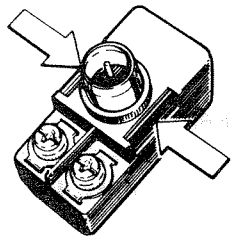
図1　FM専用外部アンテナの接続

アンテナとチューナーの接続

アンテナ端子にFMアンテナを接続するには，75Ω同軸ケーブルか300Ωフィーダー線を使います。本機の性能をフルに発揮させるためには，75Ω同軸ケーブル(3C-2Vか5C-2V)をおすすめします。

75Ω同軸ケーブルを使うとき

1. 付属の75Ω/300Ωアンテナアダプターのフタをあけます。(図2参照)。
2. 75Ω同軸ケーブルを，図3のように処理し，アダプターに取付けます(図3参照)。
3. アダプターを本機背面のFM75Ωアンテナ端子に差込みます。



矢印の方向に両側から指で軽く押してロックをはずし，手前にひけば，あけられます。

図2　75Ω/300Ωアンテナアダプターのあけかた

300Ωフィーダー線を使うとき

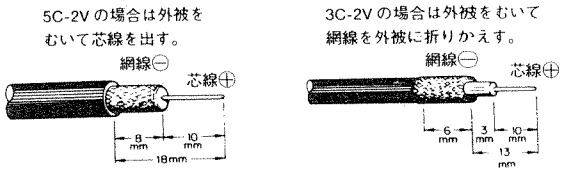
付属のアンテナアダプターのネジターミナル部に，外部アンテナからの300Ωフィーダー線を接続し，FM75Ωアンテナ端子に差込みます(アダプターには300Ω←→75Ωの変換器が入っています)(4ページ接続図参照)。

FM専用外部アンテナをたてるとき

FM雑音の中で，悩みの多いものにイグニッションノイズ(自動車のエンジンよりでる雑音)があります。この雑音をさけるために，アンテナを道路からできるだけ離れた所にたててください。

送信アンテナからごく近い所でFM外部アンテナをたてますと，電波が強すぎて音がひずむことがあります。これは故障ではありません。アンテナを室内アンテナにかえるか，または，お近くのケンウッド営業所にご相談ください。

1. 同軸ケーブルを図のように加工します。



2. 加工した同軸ケーブルを，下図のように付属の75Ω/300Ωアンテナアダプターに取付けます。5C-2Vはピンのすき間の広い部分に巻きつけます。3C-2Vはさらに狭い部分まで挿入して巻きつけます。右上のリングをふたの突起にはめかえてください。

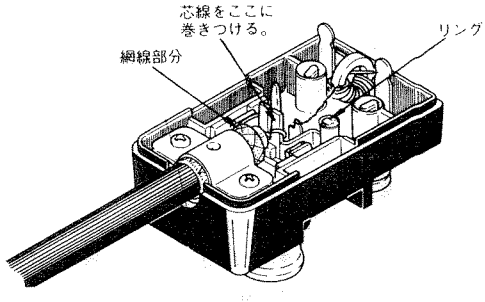


図3　付属のアダプターと同軸ケーブルの接続

AM 外部アンテナ

AMリードアンテナ

鉄筋住宅の場合などでループアンテナを接続しても，受信状態が悪いときは，AMアンテナ端子にビニール被覆線を6～15m屋外にはってください。このとき必ずループアンテナも接続したままにしておきます(図4)。

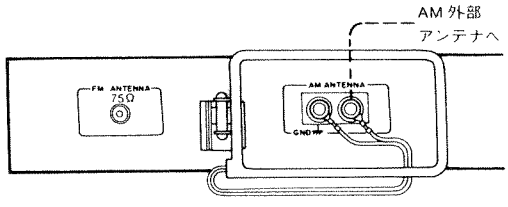
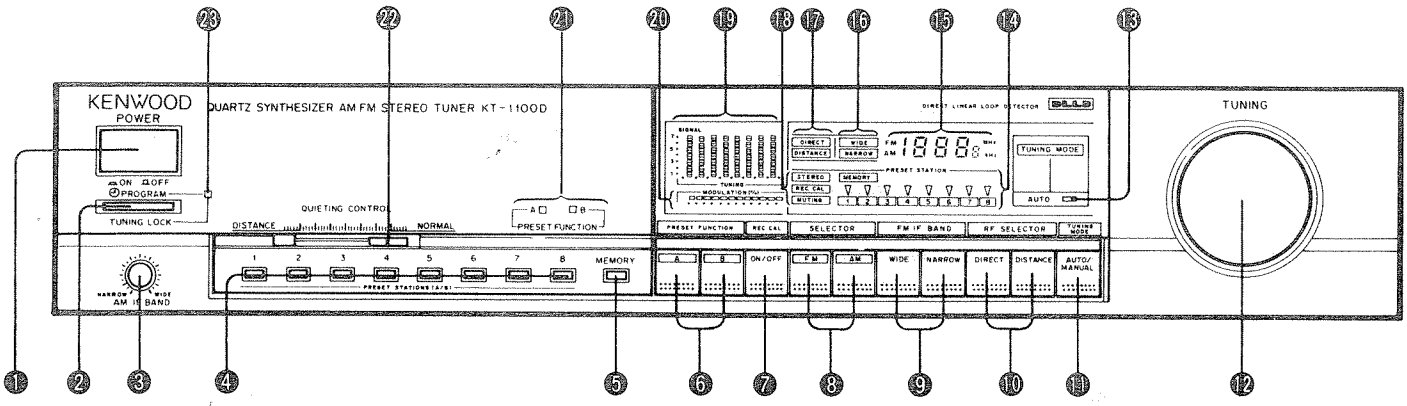


図4　AMリードアンテナの設置

アースの接続

アースは，アース(GND)端子につなぎます。アースはしなくとも放送受信はできますが，雑音除去と安全性などの点から接続されることをおすすめします。但し，ガス管には，絶対に接続しないでください。

各部の名称と動作説明



❶ 電源スイッチ(POWER)

押すごとに電源が入ったり，切れたりします。

❷ プログラムスイッチ(PROGRAM)＋チューニングロックスイッチ(TUNING LOCK)

チューニングロックとプログラムの両方の機能のためのスイッチで，押すごとにON OFFが切り換わります。このスイッチがONされているときには，現在受信している周波数は固定され，選局つまみを回しても周波数は変わりません。

❸ AM IFバンドつまみ(AM IF BAND)

AM放送を受信する際，復調帯域を広帯域(WIDE)から狭帯域(NARROW)まで連続的に可変できます。

WIDE：混信のない地域での通常の位置です。低ひずみで，より音質のよい放送を受信することができます。

NARROW：プリエンファシスされた放送局を受信する場合や，混信がある場合の位置です。選択度特性がよくなり，混信のない受信ができます。

❹ プリセットステーションスイッチ(PRESET STATION (A/B))

A側，B側それぞれのスイッチに1局ずつFM局又はAM局を記憶させることができます。スイッチを押すとプリセットステーションインジケーターが点灯し，周波数カウンターにこのスイッチに記憶させた周波数が表示されます。

❺ メモリースイッチ(MEMORY)

このスイッチを押すとメモリーインジケーターが点灯し，プリセットステーションスイッチへのメモリースタンバイ状態になります。

❻ プリセットファンクションスイッチ

このスイッチでA側(8局)，B側(8局)を切り換えます。

❼ レコーディングキャリブレートスイッチ(REC CAL)

FM放送を録音するとき，テープデッキの録音レベルを設定するのに使うスイッチです。**レベル設定が済んだとき，録音をしないときは，このスイッチを必ずOFFにしてください。**スイッチがON状態のときに，REC CALインジケーターが点灯します。

❽ セレクタースイッチ(SELECTOR)

FM：FM放送を受信するときに押します。

AM：AM放送を受信するときに押します。

❾ FM IFバンドスイッチ(FM IF BAND)

FM放送を受信する際，中間周波数の信号の通過帯域をWIDE(広帯域)とNARROW(狭帯域)に切替えることができます。

WIDE：通常は，この位置にしておきます。歪の少ない良質の音を受信することができます。

NARROW：隣接局の妨害がはげしく，放送がききとりにくいときの位置。選択度特性がよくなり，妨害の少ない受信状態となります。

❿ RFセレクタースイッチ(RF SELECTOR)

放送局の増加に伴い，RF相互変調や混変調ひずみなどが重要視されますが，これらの対策として設けられたのがこのスイッチです。お住いの電波条件に合わせ，更に良好な受信をするためにIF帯域切替スイッチと併用されることをおすすめします。

DIRECT：このスイッチを押しますとRF相互変調妨害，混変調妨害などが少なく，最良の音質が得られます。電波が強い地域では，この位置にしますと，優れた音質で受信することができます。

DISTANCE：遠距離の放送局を受信する場合，この位置でおききください。受信状態が上がり，SN比の良い状態で受信できます。

⓫ モードスイッチ(TUNING MODE AUTO/MANUAL)

押すごとにオートインジケーター(AUTO)が点灯したり消えたりします。

AUTO点灯：オート選局状態となります。

AUTO消灯：マニュアル選局状態となります。

⓬ 選局つまみ

AM，FM放送を選局するつまみです。AUTOモードのときに，このつまみを少し右に回すと周波数が上昇し，左に回すと下降します。

MANUALモードのときは，チューニングシグナルインジケーター(SIGNAL)をみながら，このつまみを回して希望の放送局の周波数を受信します。

⓭ チューニングモードインジケーター

モードスイッチがAUTOのとき点灯します。

⑭ プリセットステーション/メモリーインジケーター

メモリースイッチを押すとMEMORYが，任意の番号のプリセットステーションスイッチを押せば，それぞれの番号の上の▽が点灯します。

⑮ 周波数ディスプレイ

AMまたはFMの周波数をデジタル表示します。選局時にはこの表示を見ながら正確な同調をとってください。

⑯ FM IFバンドインジケーター

WIDE：FM IFバンドつまみがWIDEポジションのとき点灯します。

NARROW：FM IFバンドつまみがNARROWポジションのとき点灯します。

ご注意：

AM放送受信時には点灯しません。

⑰ RFセレクタースイッチインジケーター

DIRECT：RFセレクタースイッチのDIRECTを押すと点灯。

DISTANCE：RFセレクタースイッチのDISTANCEを押すと点灯。

ご注意：

AM放送受信時には点灯しません。

⑱ 各種インジケーター

STEREO：FMステレオ放送を受信すると点灯します。

REC CAL：レコーディングキャリブレートスイッチをONすると点灯します。

MUTING：チューニングダイヤルやファンクションスイッチを操作したときに点灯します。

⑲ チューニングシグナルインジケーター

シグナルメーター(タテ方向)とチューニングメーター(ヨコ方向)の組合せによって，同調前後のシグナルの強さと同調の推移を視覚的にわかりやすく把握することができます。同調に近づくに従って端から順に赤色で点灯，同時にシグナルの強さに従って点灯するポイント数が増えていきます。同調時には，中心の上下方向にシグナルの強さに応じたポイント数が，白色で点灯します。

離調するときは，逆の推移をたどって，赤色のポイントが減少していきます。

ご注意：

1. AM放送受信時は，放送局に同調しますと中央の白のインジケーターが点灯します。
2. 電界が不十分のときやIFバンドがNARROWのときなどは，左側と右側のステップが4ポイント以下の表示しかしなかったり左右非対称に表示されることがあります。

⑳ モジュレーションインジケーター

変調度を点灯表示します。7ドット以上はピークホールドされます。(注　電波の弱い局をマニュアル選局した場合は点灯しません。)

㉑ プリセットファンクションインジケーター

プリセットファンクションスイッチの押された位置に応じてAまたはBのインジケーターが点灯します。

㉒ クワイティングコントロールつまみ(QUIETING CONTROL)

ステレオ放送のS/N比改善のため，左右チャンネルのブレンド量をこのスイッチで調節します。遠い局などSN比のわるい局を受信する場合はDISTANCE側にするとSN比のよい状態で聞くことができます。(左端ではMONO受信となります。)通常はNORMALの位置で受信します。

㉓ プログラムインジケーター十チューニングロックインジケーター

プログラムスイッチ十ロックスイッチがONのとき点灯します。

操作のしかた

オート選局のしかた

①アンプの入力セレクターがTUNERになっていることを確かめてください。
②電源スイッチ(POWER)を押します。
周波数ディスプレイが点灯し，ラストチャンネル※が表示されます。
③AM放送を聞くときはセレクタースイッチ(SELECTOR)のAMを押します。
周波数ディスプレイがAM表示になり，ラストチャンネルが表示されます。
FM放送を聞くときはセレクタースイッチ(SELECTOR)のFMを押します。
周波数ディスプレイがFM表示され，ラストチャンネルが表示されます。
④チューニングモードスイッチ(AUTO／MANU)で，オートインジケーター(AUTO)を点灯させます。
⑤周波数の高い局を選ぶときは，選局つまみ(TUNING)を少し右に回します。低い局のときには左に回します。周波数を自動的に走査して，放送局のある周波数で停止します。シグナルインジケーター(SIGNAL)が点灯し，放送が受信されます。
⑥音量と音質調整はアンプで行ってください。

FM・IFバンドについて

電波の弱いFM局を受信するときは，FM IFバンド スイッチをNARROWにしてください。

AM・IFバンドについて

現在，AM放送はプリエンファシスをかけている局とそうでない局がありますが，本機では，AM・IFバンドつまみの連続可変で次のように対応できます。

- プリエンファシス放送をきくとき……NARROW側
- 普通の放送をきくとき……WIDE側

にすると周波数特性がフラットになります。実際に放送を受信し，このツマミを調節して音質をかえることもできます。

※ラストチャンネル

メモリーバックアップがされていれば電源を切る寸前の周波数が記憶されます。この周波数をラストチャンネル周波数と呼び，再度電源を入れるとこの周波数が表示されます。

マニュアル選局のしかた

オート選局では選局できない電波の弱い局，または放送局の周波数がわかっている局を受信したいときは，マニュアル選局をしてください(AM，FM両方で可能です)。
①“オート選局のしかた”の①～③項を行います。
②チューニングモードスイッチ(AUTO／MANU)でオートインジケーター(AUTO)を消灯させます。オートインジケーター(AUTO)が消えるとマニュアル選局となります。
③選局つまみ(TUNING)を調節して，希望の放送局を受信します。

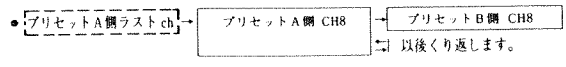
プリセットメモリーのしかた

①放送局を受信します。
②メモリースイッチを押します。
→メモリーインジケーターが点灯(約13秒)。
③メモリーインジケーターが点灯している間に任意のステーションスイッチを押します。
→メモリーインジケーターが消え，ステーションインジケーターが点灯し記憶完了。
ステーションスイッチにお好みの放送局の周波数をメモリーすれば，いつでも聞きたい局をステーションスイッチを押すだけで選局できます。

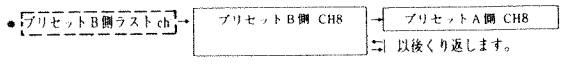
プログラム受信のしかた

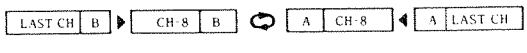
プログラムタイマーと本機を接続して電源を切る直前に受信していた局(A側あるいはB側)とA側1つ，B側1つの合計3局を受信することができます。これは3局を“るす録”するときに大変便利です。FM，AM両局で可能です。
本機のプログラム機能は，次のようになっています。

プリセットA側をラストチャンネルとした場合，電源ON–OFFで次のようになります。



プリセットB側をラストチャンネルとした場合，電源ON–OFFで次のようになります。





1.本機に電源が通電するように，プログラムタイマーを操作します。
2.本機の電源を入れ受信状態にします。
3.プログラムスイッチをOFF状態にします(プログラムインジケーターが消灯していることを確認してください。)
4.最初に受信したい局がプリセットA側の場合，2番目に受信したい局をプリセットA側のCH-8にプリセットしてください。——Ⓐ
また，最初に受信したい局がプリセットB側の場合は，2番目に受信したい局をプリセットB側のCH-8にプリセットしてください。——Ⓑ
5.3番目に受信したい局をⒶの場合は，プリセットB側のCH-8にプリセットしてください。Ⓑの場合は，プリセットA側のCH-8にプリセットしてください。
6.最初に受信したい局を選局し，受信してください。このとき，プリセットA側;B側かに注意してください。
7.プログラムスイッチをON状態にしてください(プログラムインジケーターが点灯)。
8.本機へ3度通電するようにプログラムタイマーをセットしてください。
9.最初に本機へ通電されたときに，6で受信した局が受信されます。2度目に通電されたときは，4でプリセットされた局が，3度目には5でプリセットした局が受信されます。4度目以降は，CH-8のA側B側をくりかえし受信します。

ご注意：

プログラム受信の操作をしないときは，プログラムインジケーターが消灯していることを確認してください。プログラムインジケーターが点灯していますと，電源を入れるたびにA側、またはB側のCH-8に記憶されている局が受信されます。

レコーディングキャリブレートスイッチについて

FM放送を良質な音で録音するには，適切な録音レベルの設定が必要です。FM放送は，常に出力レベルが変動するため録音レベルの設定が困難です。本機では，レコーディングキャリブレートスイッチをONにしますと，約400Hzの信号(FM50%変調に相当するレベル)が連続的にOUTPUT端子に出てきます。この出力レベルで，テープデッキのVUメーターを−6dB，または50%に合わせておけば適正レベルの音量ができます。
また，録音テープは多少のオーバー入力は許容しますので，録音レベルを高めに設定したい場合は，プログラムソースで経験的に適正録音レベルを決定し，そのレベルをこの基準レベル信号を用いて確認しておきます。次回以降からの録音レベル設定に用いると便利です。
なお，モジュレーションインジケーターと併用するとさらに適正な録音レベルの設定ができます。

故障と思われる症状ですが

調子が悪いと故障と考えがちですが，サービスに依頼する前に症状に合せて一度チェックしてみてください。

症　状	原　因	処　置
一般的なこと		
音が出ない	●アンテナをつないでいない	●AM用はループアンテナ FM用は外部アンテナ またはT型アンテナ を必ず接続する
	●アンプとの接続	●両ピンコードで必ずアンプと接続する
	●放送局を受信していない	●放送局の周波数に合せる
シグナルインジケーターの点灯が不安定	アンテナの接続が不確実	断線，接触不良のチェック
スイッチを操作すると，一時音がとぎれる	スイッチの切替えによるショックノイズ防止のため一時的にミューティングをかけている	故障ではありません
FM受信時に起りやすいこと		
ザーッという連続音が放送とともに入る。	アンテナに入ってくる電波が弱く入力不足となっている	FMアンテナの見直し，また放送局から遠距離にあるところではFM専用外部アンテナ(5～8素子)が必要です
バリバリ，ガリガリという雑音が入る	自動車などのイグニッションノイズ	アンテナを道路から離して設置し，接続コードは300Ωリボンフィーダー線よりも75Ω同軸ケーブルを使用する
ステレオ放送のはずなのにステレオインジケーターがつかずモノラルになっている	●電波が弱いためチューナー側で強制的にモノラルにしている	●FM専用外部アンテナを屋外に設置し，電波を十分キャッチする
ステレオ放送でステレオインジケーターがついているのに分離が悪い	クワイティングコントロールつまみが"DISTANCE"(左側)になっている	NORMAL(右側)にする
AM受信時に起りやすいこと		
ジーッという連続音が入る。特に夜間大きい	電気器具(蛍光灯など)による雑音や空電という雑音がアンテナから入る	屋外にAMリードアンテナを設置し，アースを取れば減少しますが，完全にとり除くことはむずかしい
放送に合わせたときだけブーンというハム(同調ハム)が入る	●電源コードの差し込み方向でてることがある	●電源コードの差し込みをかえてみる
	●地区的にでることがある	●交流電源の使用時には特定の局にハムがでるのはやむをえません
チーッ，シーッという高い連続音が入り，大きくなる	●テレビから出る雑音	●テレビを消してみる(近所のテレビの影響を受けていることもある)
	●AM放送局同志の干渉による9kHzのビート音	●AM放送方式の欠点で取り除けません
シンセサイザーチューナーで起りやすいこと		
プリセットステーションスイッチを押しても受信しない	放送局の周波数をメモリーしていない	放送局の周波数を確認，確実にメモリーする
ステーションスイッチにメモリーしたのにメモリーが消えている	●充電時間が充分でない	30分以上本機の通電をする

メ　モ

アフターサービスのお問合せは、
購入店または最寄りの当社サービスセンター
営業所をご利用ください。
商品に関するその他のお問合せは、
お客様相談室をご利用ください。
電話(03)486-5515

KENWOOD

株式会社 ケンウッド
東京都渋谷区渋谷2-17-5(シオノギ渋谷ビル)〒150
電話(03)486-5511